

起業アイデア 若き感性光る

熊本県内の高校生や大学生らが起業アイデアを競う「崇城大学ビジネスプランコンテスト」が14日、熊本市西区の崇城大であった。小規模漁業者が研究機関のデータ収集に協力し、収益を得る仕組みを提案した、熊本学園大の「SEA SEE」が優勝した。

「熊本から新しい価値を生み出す」をコンセプトに、崇城大と県が毎年開いており10回目。262件から書類選考を通過した10チームが最終審査に進んだ。

学生らは稲を食べるジャンボタニシを捕獲する特種な餌や、配送業者と配達代行業者をつないで人手不足を解消するアプリといったプランを発表。審査員が独創性や実現性を評価した。

「SEA SEE」は、学園大商学部4年の木庭尋義さん(22)、3年の村上啓さん

崇城大ビジネスプランコンテスト

漁業データ収益化 学園大V



(21)と中村一誠さん(21)が考案。漁獲量の減少などで収入が不安定な小規模漁業者と、コスト高を理由に調査の機会が減る研究機関に着目。漁業者が漁船に調査機器を設置して有償でデータを集めることで、研究機関は低コストで広範囲かつ膨大なデータを得られる仕組みを紹介した。

木庭さんは「優勝できると思っていたなかったので、とてもうれしい。持続可能な漁業の実現に貢献したい」と喜んだ。(米本充宏)